



相模川ほほえみ広場 (撮影 阿部会員)

令和4年6月号 Vol. 218
(2022年)

発行：令和4年6月7日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《訪問ガイド研修(あつぎ担当)「飯山の歴史を訪ねて」》

行事区分：訪問ガイド研修(かながわガイド協議会)

日 時：5月10日(火) 9:30~12:30

場 所：飯山地区

参加者：9団体17名、会員13名

かながわガイド協議会が主催する訪問ガイド研修*があつぎ担当で開催されました。当日は大変良い天気になりました。朝、本厚木駅北口交番前集合組は、案内板を持ってお客様をバス停に誘導するため4カ所の配置に付きました。そして予定していた参加者17名全員が1台目と2台目のバスに乗り終えてホッとしました。光福寺前でお客様を受け、2班に分かれてそれぞれガイドが開始されました。各班とも冒頭で、かながわガイド協議会の湯山会長からご挨拶がありました。



最初のガイド先の光福寺では鎌倉時代に「毛利季光(もうりすえみつ)」が、陸奥に流罪となった浄土宗の隆寛律師を匿ったお寺です、隆寛律師のお墓も案内しました。参加者から「毛利元就の先祖の発祥地が厚木市にあったのを初めて知りました」との感想がありました。次の見学先の国の登録有形文化財「小島邸」では兜造りの主屋、置屋根式の蔵、薬医門など独特の作りを見て、参加者は養蚕農家の歴史を感じたようです。また「このガイド資料、立派に出来ていますがどうやって製作するのですか?」とお褒めの言葉も頂きました。

飯山の地名の由来のガイドでは「飯盛山(めしもりやま)」が高度成長期に建築資材として掘削されて無くなってしまったことを説明すると「以前は川から砂利を採取していたのにねえ」と同年配の方から感想が漏れました。また庫裡橋の信号待ちで「あの山は何という山ですか?」の問いに「大山です」と答えたら「こんな近くに大山が見えるのですね」との事。相模川から東側の地域(海老名市や綾瀬市など)では大山が小さく見えるので「大山が近くで見られる街・あつぎ」がキャッチフレーズになりそうです。

金剛寺では山門前で、昔の伽藍配置図を掲示したところ「建物がいっぱいあり、敷地も広がったんですね」との反応がありました。ご住職のご配慮で国指定重要文化財の「木造阿彌陀如来坐像」を近くから拝むことが出来ました。

いよいよ最後の見学先、坂東三十三観音第六番札所飯山観音です。階段を上ってゆくと令和2年に大改修が行われた仁王門があります。その次の銅鐘は飯山に在住していた鋳物師「清原国光」が製作したと伝わっています。観音堂では十一面観音菩薩像が安置されている手前の外陣（げじん）まで拝観出来、皆さん細部にわたりしっかり見学していました。



桜の広場で解散しましたが、バス停に戻る人が多いなか、白山から巡礼峠に向かう男性、白山から桜山に登り尼寺（にんじ）に向かう女性、とそれぞれ会話が出来ました。午後も有効に使おうという姿勢に感心しました。厚木市観光振興課からお土産でお渡しした地図などのパンフレット類が有効に使われています。

今回の訪問ガイド研修の特徴は、前半（光福寺、小島邸）は各班のガイドが誘導しながら説明、後半（金剛寺、飯山観音）は4名のガイドが定点に待機して説明するという体制で行ないました。今回参加された方が私達のガイドを見学して、どの様に感じたのかが気になります。（澤田 記）

※訪問ガイド研修：かながわガイド協議会の各団体が相互にガイドを見学してガイド方法等について研鑽を深める目的で行われており、今回はあつぎが担当し神奈川県各団体から訪問をうけた。

《2022 年度入会の会員紹介》

4月に2名の方が入会され、通常総会の席で入会に際しての力強いご挨拶を頂きました。協会ニュース用に自己紹介をして頂きましたので掲載します。（編集担当）

高橋 健一

私は昔から多趣味で、特に60有余年アウトドアの登山活動を続けてきました。関係する組織から依頼された多くの役職などを通じて、人生のあり方などを勉強させていただきました。最近は傘壽を迎え、体力的にハードな活動に、若輩に迷惑をかけるに忍び難く思うようになりました。今後は未病長寿化、情報の電子化、心の健康推進などを観光ボランティアガイドを通じて社会貢献活動へ微力ながらお役に立ちたいと思います。健康で幸せな人生を多くの人々と共に過ごせるように、自身の体力に合わせ、残りの人生を有意義に過ごさせて頂こうと、当会へ入会させて頂くことにしました。

石川 豊

私は、学生時代に全国を旅行し、自然、観光に興味を持っていました。43年の会社員生活が終わり「さあ、やりたい事やるぞ〜」と思っていました。さて、地元？う〜ん、厚木の勤務経験あるし、七沢大好き！里山、河川の自然！ただ、厚木市民でないしなあ〜不安不安。でも、優しい観光協会の方と会長にご相談し、入会させていただきました。まず

は、勉強。自然以外にも色々あります。諸先輩のご指導はもちろんです、新たな視点で魅力を発見、発信できる様に努力しますのでよろしくお願いいたします。

PS 旧東海道歩き中（やっと、愛知県御油宿（ごゆしゅく）到達。各地の郷土料理いいです！） ご先祖様は奈良県の山奥、十津川村で南朝守護の士だったそうです（本当？）

《春季観光客入込み調査》

行事区分：行事支援

日 時：5月8日（日）9：00～16：00

場 所：厚木市内5拠点

参加者：11名

広沢寺温泉（七沢観光協会駐車場）

ゴールデンウィーク最後の日と母の日が重なった日曜日、天気予報どおり、さわやかな一日となった広沢寺温泉でした。観光協会のピカピカの新しい案内看板が立っており人気の駐車場であることがうかがえました。8時には既に下の駐車場はほぼ埋まっており早い山行、ロッククライミンググループはもう出発していたのでしょう。

その後早くも、10時半頃には、上の駐車場も満車になりました。日曜日はやはり、子連れファミリーが多く、ハイキングもさることながら、マス釣り、川魚料理？

それでも、アンケートの記入も気軽にしてくれる人が多く、案内パンフレットの売行き？絶好調！観光グッズを置いていけば沢山売れたかもしれません。（笑）

ある親御さんは「今日は釣りだけど、ハイキングも教えます」是非とも歩いて下さいね！

地元の方はさすが何度も来ている様で、運動兼ねての鐘ヶ嶽、日向山、不動尻往復、ミツマタ群生地のアピール効果もあり、「またここに来たよ」とのこと。

一方、他県ナンバーは少なかったものの、横浜、湘南方面から多くの方は口々に「アクセス良いし、何度も来ているよ」とのことです。リピーターが増えているのかもしれませんが。

「東京から引っ越してきました。厚木は住みやすいしこんな近くに自然があってうれしいです」子連れ若夫婦は厚木の魅力にはしゃいでいました。（こういう方が増えるといいですね）広沢寺と日帰り温泉入浴のみ来る方もおり、午後になってもほぼ満車の状態が続きました。やはり、ここは知る人ぞ知る駐車場、七沢の春夏秋冬、日本の原風景を思い出させてくれる地区とはおおげさでしょうか。

（石川 記）



七沢温泉（盛楽苑駐車場）

陽春になって一斉に木々が芽吹き、モコモコと小太りした山が可愛いく見えます、すでにコロナの緊急事態宣言が解除され、人出が気になる調査でした。私は前もって七沢の旅館の下調べをしておきましたが、連休明けだからでしょうか、人出も車も少なく感じました。東京から1人でガイドブックを片手にハイキングの男性や、日向薬師への女性グループ、男子学生のグループの方からアンケートを貰うことが出来ました。



横浜からのご夫婦で、温泉と食事が出る宿を尋ねられて、温泉旅館が掲載されているパンフレットをお渡し「電話を掛けて尋ねてみたらどうですか」と勧めました。熱心に一軒一軒電話を掛け始めました。事前に予約をしていないと「温泉入浴と食事のセット」は難しく断われ続けていました。

幸い一軒だけ希望が叶い、その旅館までの道順を教えました。そのご夫婦は帰りにまた立ち寄られ「大変良いお湯でした。有り難うございました」とお礼を言われた時にはこの支援をやっていて良かったと思いました。

その旅館から横浜方面に帰宅するにはもっと近い道があります。私達にお礼を言う為に遠回りして立ち寄った様です。後で今日は母の日なので、そのプレゼントだったのでは…と気づき微笑ましく胸がほっこりしました。若葉の香りを満喫し、うぐいすの鳴き声に癒されて気持ちの良い入込み調査でした。（佐々木・寺田 記）

七沢森林公園（出会いの広場）

気持ちの良いお天気でスタートした連休最終日、森林公園は青空にふわりと泳ぐこいのぼりの下、朝から多くの人で賑わいました。

早い時間から、大きな荷物を引っ張ってワイワイとバーベキュー広場へ向かうグループ、虫かごを提げ木々や池を見て歩くお子さんとお父さん、クラフト体験で造った作品を嬉しそうに抱えて歩くお子さん、シャクナゲを見に来られたハイカーの方、「自然が多く気持ち良いのでよく来ます」とお話しくださった市外からお越しのご家族など、皆さんそれぞれに楽しまれている様子でした。



また今回、質問も多くお受けしました。バーベキュー場の予約に始まり、散策コースの様子や園内の見所、階段・坂の位置、園路の歩きやすさ、所要時間など、いずれも具体的な内容でした。

コロナ禍にある現在、今後の活動等未だ不透明な状況ですが、観ボラの「積み重ねた情報を生かしたご案内」が出来る入込み調査も大切な活動である、と感じる一日でした。

（毛利 記）

飯山温泉（中飯山自治会館）

ゴールデンウィーク最終日5月8日（日）に調査を行いました。最初予定された5月1日とは異なり良い天気になりました。通過車両台数、人数調査の他に今回もアンケートを取りながら飯山温泉を訪れた目的などを聞きました。

調査地点を歩いて通る人は、七沢から巡礼峠、白山経由長谷寺、又は、この逆コースのハイキング目的の60歳70歳代のカップルが多くいました。白山神社から桜山を通り尼寺へ戻るコースを利用する人も4組ほどあり用意したパ



ンフレットを使って説明出来ました。前回までは気にしていませんでしたが、この場所でのアンケートはここを徒歩で通過する方にしか話が聞けず、車で通る家族連れからの話も聞きたいと思いました。 (小林 記)

相模川三川合流地点（青少年広場）

前週と打って変わった好天の河川敷には、朝早くからBBQをする方やスポーツ広場で野球やテニスをする方の車が駐車していました。

アンケートのため河川敷に降りると、高校生のグループが初めての炭起こしに四苦八苦の最中。アンケートの前に先ずはお手伝い。「炭に直接、火をつけても火は起きないよ」「炭を積むときは空気の流れ道を作らないと」手伝いながら河原でBBQをするときの注意をお願いします。「ごみや残った炭は持って帰ってね」「直火をして河原を汚さないでね」どうにか火も起きたので「頑張って」と声をかけると「ありがとうございます」「河原を汚さないよう気を付けます」の返事が返ってきました。



その横では先ほどからお父さんが息子さんと悪戦苦闘。どうやらタープが上手に張れないようです。片方のポールを立てると、もう一方が倒れてしまう状態を繰り返しています。「まずポールを両方とも立てましょう」「ロープをもっと緩めて」と一緒にテント張り、無事完成したところでアンケート。

始めて飯ごう炊飯をするというカップルがいました。「水加減は出来ましたか」とお聞きすると「飯ごうに目盛りがないので困りました」との答え。「でも」と女性がにっこり。「自宅の炊飯器で測り、水も入れてきました」なるほど、納得です。ここで、初めての経験を楽しもうという方が意外と多いようです。押し付けにならないよう気を付けながらBBQやテント張りをお手伝いしていると、注意することがお伝え出来、アンケートにも答えていただけるという貴重な一日でした。 (阿部 記)

観光客数の集計結果

調査場所	観光客数（人）	
	今年（5月8日）	昨年（6月26日）
広沢寺温泉	590	459
七沢温泉	797	835
七沢森林公園	986	708
飯山温泉	1,390	582
三川合流地点	1,532	※
合計	5,295	2,584

※) まん延防止等重点措置により立入禁止中につき調査せず

《かながわガイド協議会幹部研修会》

行事区分 : 外部研修
日 時 : 4月18日(月) 9:50~15:00
場 所 : 小田原市生涯学習センター会議室
参加者 : 会員1名

小田原ガイド協会が担当した幹部研修会は、新型コロナウイルス感染症流行により昨年は開催できずに2月開催予定を延期し4月になっての開催でした。

参加は、県内19団体(2団体は欠席)で議題は新型コロナウイルス感染症における各団体の取組みとして討議が行われました。各団体とも、活動に大きな影響がありこの1年間の活動は様変わりの様相でした。

緊急事態宣言やまん延防止法発令時の活動は自粛した団体がほとんどで、実施時の対策としてインカム(無線通信を通じた通信機器)の使用を始めた団体もあり、使用する際の問題点として、メンテナンスの困難さの説明がありました。

一部の団体は、マニュアル作成に取り組んだり、オンラインガイドをはじめたり、小集団での活動に切り替えた所もありコロナ感染に対応した活動を行っていました。固定費の高い団体からは、現在では限界に近いとの報告もありました。色々な体験の話があり、とても参考になった研修会でしたが、一日も早い従来の活動を望んで、会議を終了しました。

(森島誠 記)

最近の活動

日付	場所	内容	参加者
5月10日	飯山地区	訪問ガイド研修 (あつぎ担当)	会員 13名
5月14日	アミューあつぎ	定例会	会員 20名
5月23日	タウンニュース社	ガイド養成講座広報の打合わせ	会員 3名
5月28日	日向薬師	訪問ガイド研修(いせはら) 「開創1300年の宝城坊参拝」	会員 5名
6月2日	南公民館	編集会議	会員 4名

編集後記

訪問ガイド研修(あつぎ担当)が無事に開催できました。本当は今年1月20日の開催で準備していましたが、オミクロン株の急激なまん延により急遽延期になってしまいました。最近では新型コロナの感染者は減少傾向にあり、外国人観光客の受け入れ再開や、屋外でのマスク着用不要などの動きが出てきました。2年半前のような日常が早く戻ってくるといいですね。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子